

道 徳

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	道徳 1 1 2 2 1 2 3 1 2 4 1 2 5 1 2 6 1 2	A B 1,050	令和5年
17	教育出版	教 出◆	道徳 1 1 3 2 1 3 3 1 3 4 1 3 5 1 3 6 1 3	A B 1,030	
38	光村図書	光 村◆	道徳 1 1 4 2 1 4 3 1 4 4 1 4 5 1 4 6 1 4	B 5変型 1,092	
116	日本文教出版	日 文◆	道徳 1 1 5・1 1 6 2 1 5・2 1 6 3 1 5・3 1 6 4 1 5・4 1 6 5 1 5・5 1 6 6 1 5・6 1 6	A B 1,356	
208	光文書院	光 文◆	道徳 1 1 7 2 1 7 3 1 7 4 1 7 5 1 7 6 1 7	A B 1,104	
224	Gakken	学 研◆	道徳 1 1 8 2 1 8 3 1 8 4 1 8 5 1 8 6 1 8	A B 948	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

道徳

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
42冊	東書、教出、光村、日文、光文、学研

2 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の教育課程

【教育課程編成の基本方針】

「次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」という教育理念を踏まえ、小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて柔軟な教育課程を編成する。

【特別の教科 道徳における学習指導の展開】

- (1) 人間としての在り方生き方の礎となる道徳的諸価値について理解することができるように指導する。
- (2) 自己を見つめ、協働的な学びで多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習をとおして、道徳的な判断力、心情、実践する意欲と態度をもつことができるように指導する。
- (3) 自立した個人として、時に多様な価値観の対立がある場合も含め人々と共に生きる社会の中で、よりよく生きることを考えることができるように指導する。

3 教科書の調査研究

内容（調査結果は「別紙」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠
a 他者を価値のある存在として尊重する態度の育成に資する教材の扱い	都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書 第2章 令和5年度都立小中高一貫教育校教育課程に係る基本方針
b 意見の対立を扱っている教材の扱い	同上
c 国際社会で活躍し貢献できる人材としての資質・能力の育成に資する教材の扱い	同上

※調査研究項目を設定した理由

- a 「令和5年度都立小中高一貫教育校教育課程に係る基本方針」（以下、「基本方針」という。）「1（2）教育方針」では、「異学年との学習活動や地域連携、国際交流を通じて、他者を思いやり、協働して新しい価値を創造する力を育てる。」としている。このことから、誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公平に接する態度や、思いやりの心を育てるため、他者を価値のある存在として尊重する態度の育成に資する教材がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- b 「基本方針」の「7（1）サ 特別の教科 道徳」の一つとして、「矛盾したり、対立したりしている概念や物事について考え、納得解や最適解を得る活動をとおして問題解決に至るために必要な考え方を知り、物事を多面的・多角的に捉える力を養う。」としている。このことから、物事を多面的・多角的に捉える力を養うため、矛盾したり、対立したりしている概念や物事について納得解や最適解を考えることができる、意見の対立を扱っている教材がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- c 「基本方針」の「3（6）道徳性の涵養」では、「国際社会で活躍し貢献できる人材を育成するため、アイデンティティの確立とともに多様な価値観を受容する態度を育み、協働して新しい価値を創造する力を育てる。」としている。このことから、将来、主体的に社会の形成に参画し、豊かな国際感覚をもって、世界で活躍できる能力を育成するため、国際社会で活躍し貢献できる人材としての資質・能力の育成に資する教材がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 特別の教科 道徳

発行者の番号 呼称		学年	2 東書	17 教出	38 光村	116 日文	208 光文	224 学研
内 容	a 他者を価値のある存在として尊重する態度の育成に資する教材の扱い	第一学年	はなばあちゃんのために、大きな紙やクレヨンでたくさんの花を咲かせる子供たちを通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（はなばあちゃんが わらった）を扱っている。	やまがらに温かい心で接し、親切に接するみそさぎの姿を通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材（二わの こりり）を扱っている。	おさるさんの助言を聞き、みんなで遊ぶことよさに気付こうとしているくまさんの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ジャングルジム）を扱っている。	くまの温かい心に触れ、親切にすることの心地よさに気付いたおおかみを通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（はしの うえの おおかみ）を扱っている。	自分の好き嫌いに捉われず、相手の立場に立って行動した子供たちの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（やさいむらの こどもたち）を扱っている。	身近なおばあさんに対して温かい心で接し、親切にしているはやとの姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（はやとの ゴール）を扱っている。
		第二学年	給食当番時に、友達によってよそ量を減らしていたことをかおりに指摘されたほくを通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（大すきな フルートポンチ）を扱っている。	運動が苦手な友達に思いやりの心で接するほくの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ほくたちのハッピーエール）を扱っている。	うさぎの思いやりのある言動をきっかけに、親切にできなかったきつねが、自己の行いを振り返って考えている姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（くりのみ）を扱っている。	まおの言葉をきっかけに自身の言動を振り返り、誰に対しても同じように声を掛けようと考えたゆかの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ドッジボール）を扱っている。	嵐の日に、困っているぐみの木のたけに行動する小鳥の姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（ぐみの木と 小鳥）を扱っている。	島に渡る事ができないりすと、どのようにして一緒に遊ぶかを話し合う動物たちの姿から、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（およげないりすさん）を扱っている。
		第三学年	上級生から親切にされたことをきっかけに、自分から進んで親切にするわたしを通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（やさしい人大さくせん）を扱っている。	車椅子で生活しているひろみさんに温かい心で接し、親切にしているわたしの姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（手伝う心）を扱っている。	サッカーが苦手な道夫を誘う走太の言動をきっかけに、自分の言動について振り返ろうとしているほくの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（道夫とほく）を扱っている。	みんなを大切にし、平等に接しているとも子の姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（同じなからだから）を扱っている。	誰に対しても分け隔てなく接することの大切さを相手に伝えるあけみの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（お日様の心で）を扱っている。	パラリンピックを周知する活動をすの大日方さんの姿から、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（パラリンピックにねがいこめて）を扱っている。
		第四学年	たけしの違った一面を知り、偏った見方で接していた自身の態度を振り返ったももを通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（となりのせき）を扱っている。	足の不自由なおばあさんに思いやり的心をもつて接し、親切にしているほくの姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（心と心のあくしゅ）を扱っている。	男女で態度を変える京一と、「貼り付けを手伝う」と言ったにも関わらず、「怪我をした指では綺麗に貼れない」と断られた友治を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ちょっと待ってよ）を扱っている。	山小屋へ来る人のために、お米・塩・マッチを提供したデルスウを通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（三つのつみ）を扱っている。	互いによく理解し、信頼し、よりよい関係を築こうとしているほくの姿を通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材（ブラジルからの転入生）を扱っている。	信号を渡ろうとする目の不自由な人々に、勇気を出して声を掛け親切にしているほくの姿を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（心の信号機）を扱っている。
		第五学年	相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりしながら親切な行動を行ったわたしと友子を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（くずれ落ちたたんボール箱）を扱っている。	大輔の努力を理解し、自分と異なる立場を尊重しているほくの姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（位置について！）を扱っている。	互いの立場を考え、分り合うサムとビエロの姿を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材（ブランコ乗りとビエロ）を扱っている。	まさるとひろしが、広い心で自分と異なる立場を尊重し合う姿を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材（折れたタワー）を扱っている。	差別をされたガンジーが、正義の実現に向けて行動している姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ガンジーのいかり）を扱っている。	女性差別と戦い医師になった吟子の姿から「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（女性が医師になれる社会へ 荻野吟子）を扱っている。
		第六学年	開発途上国を訪れ、子供たちのために尽力する黒柳徹子を通して、「親切、思いやり」について考えることのできる教材（みんないっしょだよー黒柳徹子）を扱っている。	人権の大切さを訴える小学生が書いた作文を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（みんなが幸せに暮らせる社会へ）を扱っている。	黒人差別の時代に、マーティンが目指す世界を実現するためにはどのような考えが大切かを考えることを通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（私には夢がある）を扱っている。	日本・トルコの両国が互いを思いやり、人々の命を大切にしている姿から、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（エルトゥールル号ー日本とトルコのつながり）を扱っている。	外国から来たから日本語ができない、英語ができるというのは、自分への思い込みであることに気が付き、他にも偏った見方をしていないか考える加奈の姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材（ピンクのバック）を扱っている。	知的障害がある人を雇用し、一緒に働く日本理化学工業の人たちの姿を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材（カラフルな工夫）を扱っている。

「別紙」【内容 調査研究】 都立川国際中等教育学校附属小学校 特別の教科 道徳

発行者の番号 呼称		学年	2 東書	17 教出	38 光村	116 日文	208 光文	224 学研
内 容	b 意見の対立を扱っている教材の扱い	第一学年	大好きなプリンをくまくんに食べられたりすくんが、食べられて嫌だったことを伝えたいと思いつつも、突き飛ばされたら嫌だと思いつつ迷っている姿を通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(ダメ)を扱っている。	はるかと一緒に遊ぶかどうかで、わたくしとゆきの考えや意見が対立している場面を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材(いっしょに あそぼう)を扱っている。	「うらやまにいこう」と主張するかと、「うらやまはあぶないから」と、はいてはいけない」と主張するぼんたのやりとりを通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(ぼんた かんた)を扱っている。	やまがらの誕生日会とうぐいすの家の行われる音楽会の練習のどちらに参加するかで悩むみそささいを通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材(二わの こと)を扱っている。	行っとはいけないことになっているみどりがわに魚釣りに行こうと主張するやすおさんと、危ないから駄目と主張するしんちゃんのやりとりから、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(ぼくは いかない)を扱っている。	みらいが描いた絵を「ぼくにもみせたい」と主張するげんかと「なんでもないと」主張し、描いた絵を隠そうとするみらいのやりとりから「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材(みらいが かった え)を扱っている。
		第二学年	ボールを決められた場所に返さなければならぬと分かっているが、誰にも取られたくないという思いから葛藤するほくを通して、「規則の尊重」について考えることのできる教材(かくした ボール)を扱っている。	「まずだくんにいじめられる」と主張するみほちゃんと、「正しいことや親切な行為をしているにも関わらず『いじめられる』と言われる」と主張するまずだくんを通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材(みほちゃんと、となりのせきの まずだくん)を扱っている。	学校から帰ってすぐに漢字のノートを広げたほくが、怠けるか頑張るかで迷う姿を通して、「希望と勇氣、誠実」について考えることのできる教材(ほくは まけない)を扱っている。	自分の言い分で傷つけてしまったギロに素直に謝るか謝らないかで迷っているコロの姿を通して、「正直、誠実」について考えることのできる教材(お月さまと コロ)を扱っている。	テストでもらった△を○に書き直すことは悪いことと分かっているが、迷い書き直そうとする一ちゃんの姿を通して、「正直、誠実」について考えることのできる教材(ねこが わらった)を扱っている。	公園の水の広場で遊んでいる子たちを注意しようとするあすかと、注意しようとするあすかを止めようとするみらいのやりとりを通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(水の広場)を扱っている。
		第三学年	だいちの間違った受け取り方をきっかけに、思いが対立するだいちとれんを通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(かしたつもり×もらったつもり)を扱っている。	周囲の友達に同調しつつも、心の中では気にならなげな意地悪をするわたしの姿を通して、「正直、誠実」について考えることのできる教材(悪いのはわたしじゃない)を扱っている。	たくやとほくで遊び方についての意見が対立している場面を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(日曜日の公園)を扱っている。	机の上に出たままのりょうじの筆箱を隠し、ドッキリにしようというまことの提案に乗りようとする3人と、やめた方がいいと主張するほくを通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(たからさがし)を扱っている。	「さとみちゃんは誘わない」と主張するあやちゃんの言葉をきかずに、さとみちゃんを誘うか誘わないかで迷うわたしの姿を通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(思い切った言ったらどうなるの?)を扱っている。	「目が見えない犬の命」と「団地のきまり」とで葛藤している私の姿を通して、「生命の尊さ」について考えることのできる教材(目が見えない犬)を扱っている。
		第四学年	掃除をめぐって「自分たちで掃除するのは当たり前」と主張するほくと、「これまで通っていた学校では、大人の清掃員さんたちが掃除をしていた」と主張するトムを通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(合言葉は「話せばわかる!」)を扱っている。	「思い出そう会」の内容をめぐって「やりたい人が多いものを」と主張するまささんと「退院したばかりのこうたさんでもできるものを」と主張するなつみさんを通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(わかってくれてありがとう)を扱っている。	正子から届いた料金不足の絵はがきをめぐって「料金不足だったことを教えた方がよい」という兄の主張と「おれだけ言った方よい」という母の主張との間で迷う私を通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材(絵はがきと切手)を扱っている。	まさるくんの誤った回答をみんなが笑ったことに対して、「おもしろかったら、笑っていいの。」と主張するみかさんと、「おもしろかったし、まさるくんも気にしてないし、みんなにうけたんだから、気にするほどじゃない。」と主張するげんきくんを通して、「公平、公正、社会正義」について考えることのできる教材(いじりといじめ)を扱っている。	子供だけでは行っとはいけないことになっている三角公園に、一緒に行かないかとあきら君から誘われ、行くか行かないかで迷っているほくの姿を通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(心にブレーキ)を扱っている。	運動が苦手なたけしの味方になり、練習に出してあげようと言うべきか、言わないべきか葛藤しているそなたの姿を通して、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(クラスたいこう全員リレー)を扱っている。
		第五学年	団員をまとめるリーダーのピエロと一人スターとしてサーカスを盛り上げるサムとの意見の対立を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(プランコ乗りとピエロ)を扱っている。	インターネットで見つけたものを半分以上書き写して書いた自身の読書感想文が学校の代表作品に選ばれ、叱られる自分と賞状を受け取る自分を想像しながら、本当のことを言うべきかどうか迷っている知子さんの姿を通して、「正直、誠実」について考えることのできる教材(参考にするだけなら)を扱っている。	「真紀は短気だから適当に合わせておく方がいい」と主張するわたしと、「相手によって言うことを変える人は信用できない」と主張する絵里子を通して、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(みんな、おかしいよ!)を扱っている。	「したいことをしたいようにできることが自由である」とするジェラル王子と「それは本当の自由ではなく、わがままである」とするガリウーの「自由」に対する意見の対立をもとに、「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(うばわれた自由)を扱っている。	大劇場での出演と男の子の前で手品をするという約束との間で葛藤している手品師の姿を通して、「正直、誠実」について考えることのできる教材(手品師)を扱っている。	悪い気分になりながらも、SNSのグループトークでコウの悪口を言い始めたナオミに同調したわたしの姿を通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材(ひみつのグループトーク)を扱っている。
		第六学年	「隣の人のピアノがうるさい。静かに生活する権利がある。」と主張するAさんと「ピアノを弾く権利もある。」と主張するBさんを通して、「規則の尊重」について考えることのできる教材(ピアノの音が……)を扱っている。	ゆうすけさんたちのグループのターゲットにされ、ちょっかいを出されるたかひろさんを見て、何とかしてあげたいと思いつつも、何もできずにいるほくの葛藤を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材(ひきょうだよ)を扱っている。	容疑を掛けられたロレンゾへの対応をめぐって、「だまって逃がす」、「自首を進める」と意見を対立させている友達を通して、「友情、信頼」について考えることのできる教材(ロレンゾの友達)を扱っている。	多くのユダヤ人を助けるためにピザを発売するべきか政府の指示に従ってピザの発売をやめるべきかで葛藤している杉原千畝の姿を通して、「公正、公平、社会正義」について考えることのできる教材(杉原千畝一大勢の命を守った外交官一)を扱っている。	修学旅行の見学先や見学時間をめぐってわたしと佐藤さんの意見の対立をもとに、「相互理解、寛容」について考えることのできる教材(修学旅行の自由行動)を扱っている。	ずっと起きていようと約束した移動教室の夜、先生に注意された後もしゃべっている私たちと、気分が悪いから寝たいと主張する千葉さんのやり取りを通して「善悪の判断、自律、自由と責任」について考えることのできる教材(移動教室の夜)を扱っている。

「別紙」【内容 調査研究】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 特別の教科 道徳

発行者の番号 呼称		学年	2 東書	17 教出	38 光村	116 日文	208 光文	224 学研
内 容	国際社会で活躍し 貢献できる人材と しての資質・能力 の育成に資する教 材の扱い	第一学年	他国の料理の写真や他国の子供たちが行う料理の説明をもとに、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ほかのくからきた たべもの）を扱っている。	国ごとに異なる気持ちや考えを表すしぐさに関心をもつことを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（せかいのしぐさ）を扱っている。	様々な国の子供たちが遊んだり、食事をしたりしている写真を通して、様々な国の子供たちのことを知り、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（せかいのこどもたち）を扱っている。	母との会話をきっかけにオリンピック・パラリンピックに込められた願いを知り、様々な国の人々と仲良くなりたいと考えた私を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（スポーツをとおして）を扱っている。	オーストラリアと日本とは、答え合わせの仕方が異なることに気付く、オーストラリアのことをもっと知りたいと思ったわたしの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（エマさんの こたえあわせ）を扱っている。	フィリピンから来たジェニーちゃんに話しかけ仲良くなったしんやの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（となりの ジェニーちゃん）を扱っている。
		第二学年	他国の遊びや着ているものについて調べ、他国の人たちと仲良くなりたいという思いをもったたけしの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（せかいのくの人に 人たち）を扱っている。	日本と世界との違いや、他国の文化や慣習に親しむことを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（くらべてみよう日本とせかい）を扱っている。	日本の主食である米が、他国でどのように食べられているか興味をもち、調べたわたしを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（日本のお米、せかいのお米）を扱っている。	アイトからタヒチ語やタヒチの気候について教えてもらったことをきっかけに、もっとタヒチのことを知りたいと考えたほくの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（タヒチからの 友だち）を扱っている。	ブラジルでは日本の柔道や折り紙を学校で習うことを、ジョゼくんから教えてもらったことをきっかけに、もっとブラジルのことを教えてほしいと考えたほくを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ジョゼくん と おりがみ）を扱っている。	他国の食べ物、文化に親しみ、異なる文化のよさに気付くほくの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ジェニーちゃんのおもてなし）を扱っている。
		第三学年	三つの国の違いや同じことに気付く、それぞれの国のよさを見つけたいと意欲を高めるわたしを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（三つの国）を扱っている。	隣に引越してきたフランスの人々や文化に親しみ、自分たちと異なる文化のよさに気付くわたしの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ライラックのさく庭で）を扱っている。	フィリピンからきたリサ先生との交流をきっかけに、国際交流のよさに気付くほくの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（マサラップ）を扱っている。	他国の人々や文化に親しんだり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりしているほくの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（同じ小学校でも）を扱っている。	他国の文化を理解し、他国の力になろうとボランティア活動に励むあやかのお姉さんの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（海をわたるランドセル）を扱っている。	他国の言語や文化について理解し、そのよさに気づくわたしの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（アメリカから来たサラさん）を扱っている。
		第四学年	様々な国の小学生が行う、自分の国の学校生活の紹介を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（世界の小学生）を扱っている。	イギリスの少女マーサの学校給食を支援する活動を知り、関心をもつほくの姿を通して「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（世界の子どもたちのために）を扱っている。	世界の子供たちの大切なものと、自分の大切なものとを比べながら考えることを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（わたしの大切なもの）を扱っている。	ジェームズから教えてもらったブルラッシュという遊びから世界の鬼ごっこに関心をもち、調べたほくの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ブルラッシュ）を扱っている。	百年以上前に日本からアメリカに友好の印として送られた桜が、両国の架け橋となったことに気付いた正人の姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（さくらのかけ橋）を扱っている。	アメリカの文化や一人一人の意見や希望を大事にするアメリカ社会の考え方を知り、日本にそれらを広めた万次郎の姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（アメリカとの出会い ジョン万次郎のぼうけん）を扱っている。
		第五学年	折り紙の楽しさを伝え、世界の様々な問題を抱える子供たちを救った加瀬さんの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（「折り紙大使」一加瀬三郎）を扱っている。	アフガニスタンで現地の人々のために活動し続けた医師 中村哲さんの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（百の診療所よりも一本の用水路を一中村 哲一）を扱っている。	日本と外国の礼儀や身振りの違いを知り、他国のことをもっと知りたいと意欲を高めたわたしを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（小さな国際親善大使）を扱っている。	ペルーの歴史や文化、習慣等を学びながら、ペルー女子バレーボールチームの監督として、ペルーを南米1位に導いたアキラの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ペルーは泣いている）を扱っている。	食事の仕方、学校内でのルール、日常生活でのマナー等、世界の国々には様々な違いがあることに気付く、国際親善に努めようとしているルネの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ペルーは泣いている）を扱っている。	英語力を磨き、アメリカにおいて日本の文化を伝える講演を行った新渡戸稲造の生き方を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（太平洋のかけ橋 新渡戸稲造）を扱っている。
		第六学年	自身の経験をもとに、エンザロ村に、手作りのかまどを普及させた岸田装さんを通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（エンザロ村のかまど）を扱っている。	ベトナム・フエ市の人々のために、浄水の技術指導を行った横浜市水道局の人々の姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ベトナムの人に安全な水を）を扱っている。	トルコの人々を救おうとする日本の人々の姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（エルトゥールル号一友好の始まり）を扱っている。	アイルランドの歴史を学び、国旗の示す正しい緑を再現するために努力した吹浦さんの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（東京オリンピック国旗にこめられた思い）を扱っている。	日本の高齢者介護施設で働くリエンさんの話をきっかけに、自分も様々な国の人を笑顔にしたいと考えたさくらの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（ハスの花のように）を扱っている。	イランのじゅうたん「ギャッベ」に込められたカシュガイ族の女性の願いと、日本のお母さんが家族を思う気持ちが同じであると考え、「ギャッベ」を日本で広く紹介しているわたしの姿を通して、「国際理解、国際親善」について考えることのできる教材（幸せをいのって織るじゅうたん）を扱っている。

